

# 平成九年度 陵墓調査報告

## 陵墓調査室

陵墓調査室では、古代高塚式陵墓及び埋蔵文化財包蔵地内にある陵墓の保全・整備のため緊要な土木工事等を実施するに当たって、施工区域・箇所・遺構・遺物の有無を確認し、工法決定に資するために事前調査・立会調査を行っている。平成九年度も各陵墓監区事務所と協力して次の区域・箇所において調査を行った。

### 〔事前調査〕

- 一、宇倍野陵墓参考地（鳥取県岩美郡国府町大字岡益）内石造物緊急保存処理事業箇所（「岡益の石堂」礎石）の調査（月輪監区、五月実施）  
担当 笠野 毅、加藤隆昭・中原 斉・山杵雅美（以上三名鳥取県教育委員会）、津川ひとみ（国府町教育委員会）
- 二、欽明天皇檜隈坂合陵（奈良県高市郡明日香村大字平田）墳塋護岸その他整備工事区域の調査（畝傍監区、一一・一二月実施）  
担当 徳田誠志・清喜裕二・久保俊郎・本多 均・池西良和・小走泰弘
- 三、桃山陵墓地（京都市伏見区桃山町古城山 伏見桃山東陵前）防災整備（防火貯水槽取設）工事箇所の試掘調査（桃山監区、一月実施）  
担当 福尾正彦・田端勝一・森下利光・北野聖史・坂本博史・森岡正則・瀬尾義弘・玉石直裕・宮田一弘
- 四、豊島岡墓地（文京区大塚五丁目）内埋蔵文化財の調査（多摩監区、二・三月実施）  
担当 徳田誠志・清喜裕二
- 〔立会調査〕
- 五、安寧天皇畝傍山西南御陰井上陵（奈良県橿原市吉田町）外周侵入防止柵設置工事箇所の調査（畝傍監区、七月実施）  
担当 古河稔也・本多 均
- 六、雲部陵墓参考地（兵庫県多紀郡篠山町東本荘）渡土堤入口改修工事箇所の調査（月輪監区、七・八月実施）  
担当 曾田誠二・高橋秀明・野村吉成
- 七、敬仁親王墓（文京区大塚五丁目、豊島岡墓地内）鳥居改築工事箇所の調査（多摩監区、八月実施）

担当 福尾正彦

八、東山本町陵墓参考地（京都市東山区本町一六丁目）入口門扉改修工事箇所の調査（月輪監区、八月実施）

担当 寺田勝比古・藤本 寛

九、顕宗天皇傍丘磐坏丘南陵（奈良県香芝市北今市）見張所改築工事箇所の調査（畝傍監区、八・九月実施）

担当 徳田誠志・小走康弘・大林茂男

一〇、崇道天皇八嶋陵（奈良市八島町）見張所改築工事箇所の調査（畝傍監区、八・九月実施）

担当 徳田誠志・吉村弘士・山本昌弘

一一、井上内親王宇智陵（奈良県五条市御山町・黒駒町・大野町）鳥居改築工事箇所の調査（畝傍監区、八・九月実施）

担当 久保俊郎・西村寛治

一二、尊良親王墓（京都市左京区南禅寺下河原町）鳥居改築工事箇所の調査（月輪監区、九月実施）

担当 内海克己・藤井 勲

一三、暲子内親王墓（京都市右京区鳴滝中道町）鳥居改築工事箇所の調査（桃山監区、九月実施）

担当 坂井洋介・玉石直裕

一四、天智天皇山科陵（京都市山科区御陵上御廟野町）見張所改築工事箇所の調査（月輪監区、一一～二月実施）

担当 福尾正彦・山本忠浩・奥野 肇・中川幸信

一六、神武天皇畝傍山東北陵（奈良県橿原市大久保町）黒木鳥居改築工事箇所の調査（畝傍監区、一月実施）

担当 村島三彦・南 義孝

一七、仁徳天皇百舌鳥耳原中陵（堺市大仙町）樋の谷漏水防止工事箇所の調査（古市監区、一～三月実施）

担当 小林利雄・多田京介

一八、孝昭天皇掖上博多山上陵（奈良県御所市大字三室）鳥居改築工事箇所の調査（畝傍監区、二月実施）

担当 久保俊郎・川添 悟

一九、神武天皇畝傍山東北陵（奈良県橿原市大久保町）苗圃連絡橋改修その他の工事箇所の調査（畝傍監区、二月実施）

担当 古河稔也・本多 均

二〇、仲哀天皇恵我長野西陵（大阪府藤井寺市藤井寺四丁目）墳塋護岸その他の整備工事箇所の調査（古市監区、二・三月実施）

担当 福尾正彦・富賀 稔・寺本公通

二一、男狭穂塚女狹穂塚陵墓参考地（宮崎県西都市大字三宅字丸山）擬木柵取設工事箇所の調査（桃山監区、二・三月実施）

担当 福尾正彦、日高正晴（西都原古墳研究所）

事前調査四件のうち、一については、保存処理に伴う他の各種調査の

結果とともに本誌に報文を別載し、二以下は報文を後掲する。

立会調査のうち、見張所改築工事に伴う九・一〇・一四、特別営繕工事に伴う二〇、遠隔地にあるなど監区事務所職員の立会調査が困難な七・二一の六件は、当調査室員も参加したもので、七を除く報文を後掲する。このほかの調査は、以下の通りで、一三から遺物が出土した以外いずれの箇所からも遺構・遺物は検出されなかつたので、予定通り施工した。

五、掘削地の南半は、三〇年ほど前の擁壁が検出され、これから上は埋土。北半は、もと畑といわれる場所であるが、同様の土相を示し、盛土と思われる。

六、掘削をした東西両渡土堤とも、礫混りの柔らかい茶褐色土層（一部黄褐色土層）で盛土と思われる。

七、一〜二三・一六・一八、在来鳥居の再発掘であり、大部分がその埋戻土であつたが、一部に地山や拝所造成前の旧表土（二三）が認められた。一三では、埋戻土から半磁器風の陶器二片と拝所造成前の旧表土から瓦二片（うち一片は釉薬瓦）が出土。

八、表土、コンクリート塊混りの攪乱層の下には、黄褐色粘質土があり、自然堆積層かと考えられる。

一七、掘削範囲は、大部分が在来施設の埋戻土であつたが、一部ではその下に濠内堆積土や地山らしい土層が認められた。

一九、鉄扉改修基礎掘方内は、粘土ブロックのような土を含んだ土層

で、盛土と推定される。なお橋脚は在来のものを再用了。

また平成九年度においては、次の調査も実施した。

#### 〔墳丘調査〕

平成一〇年三月二四日〜三〇日、仁徳天皇百舌鳥耳原中陵の括部の状況を観察・実測した。当年度を最終年度とした四次にわたる調査成果は、折を見て本誌上に発表する予定である。

#### 〔石塔等の写真測量〕

平成九年度は、後宇多天皇髮塔はじめ三基の当初計画を変更し、宇倍野陵墓参考地内「岡益の石堂」の保存処理前の現状を精細な測量図に記録した。この際に測量図の資とすることを第一目的に、丸にS字の陰刻等も調査・採拓をした。詳細は、本誌に別報として掲載している。

#### 〔埴輪の胎土分析〕

奥田尚氏に仲哀天皇恵我長野西陵、白鳥陵及び仁賢天皇埴生坂本陵出土の埴輪の胎土分析を依頼し、八月二五・二六日の両日に実施した。その結果、これらの埴輪に含まれる砂・砂礫は、土師の里産が最も多く、このほか大和川、羽曳野丘陵、古市付近に産出する砂利や砂も用いられていることがわかった。詳細は、折を見て本誌上に発表したい。

なお、平成六年調査の磐之媛平城坂上陵出土埴輪（本誌第四七号に掲載）について、平成七年五月に奥田尚氏に行つて頂いた胎土分析の結果

を本誌に併載した。

## 欽明天皇 檜隈坂合陵整備工事区域の調査

### 一 はじめに

第二九代欽明天皇の檜隈坂合陵は、奈良県明日香村大字平田に所在する。東西に延びる丘陵南斜面に立地し、前方部を西に向ける。周囲に濠をめぐらし、現状では前方部正面中央と後円部背後に墳丘主軸に沿って渡土堤が設けられており、周濠を二分している。このような立地に制約されたために、渡土堤を挟んで南側と北側の濠底では約二メートルの比高差があり、現在は南側の濠にのみ水を湛えている。

本陵も、濠水のある他の陵墓と同様に、墳丘南側裾部は長年の波浪によつて浸食され、一部崩落している箇所もある。この南側裾部には、大小の礫石が広く累積し、葦石の存在が予想され、場合によつては葦石が既に露出し、あるいは失われている可能性が予想された。よつて、この墳丘裾の護岸工事が計画され、工事に先立つて施工範囲における遺構・遺物の有無、及び工法の決定に必要な所見を得ることを目的として、墳丘裾部に一六箇所の特レンチを設け、発掘調査を実施した。

また、後円部側入水口付近には長年の堆積土が厚く堆積し、一部陸地化しているために、この部分の堆積土除去工事も計画された。よつて、この部分にも同様の目的で二箇所の特レンチを設定し、発掘調査を実施

した。

調査は平成九年一月四日から実施し、造出部の追加調査を含めて、同年一二月五日に終了した。この間坪井清足・梅田甲子郎の両氏にはそれぞれ考古学・地質学の立場から現地を検分いただきご指導を賜った。

なお、本陵については昭和五三年に外堤の樋管改修及び漏水止・護岸工事に先立つて事前調査が実施されている。その結果については本誌三一号（昭和五五年二月刊）を参照されたい。（徳田 誠志）

### 二 トレンチの設定方法と基本層序

先述したように墳丘裾部に一六箇所、後円部濠内に二箇所の計一八箇所の特レンチを設定した。特レンチは長さ五メートル、幅二メートルを基本としたが、渡土堤が取り付く前方部正面の第2特レンチと、前方部隅角部分の第5特レンチは、本来の墳形を知る上で重要な箇所にあたるので、五メートル×五メートルの範囲を調査区として掘削した。結果的には第5特レンチは第4特レンチから続く葦石の南限を確認するために北へ七メートルほど拡張して、葦石の遺存状況を確認した。

また、造出が検出された第9特レンチでは、最終的に南北一〇メートル、東西四・五メートルの範囲を掘削した。第18特レンチは造出の西側を確認するための特レンチであるため、幅一メートル、長さ二メートルほどの範囲の掘削に留めた。

調査した各特レンチにおける基本層序は次の通りである。